

け

けいえいかもく 経営科目 国鉄においては損益勘定の経費をそれが支出される際の形態、例えば職員給・扶養手当・石炭費等によって分類決算すると同時に、その経費がどのような目的のために費されたか、すなわち目的による分類によっても決算することになっている。後者の分類を示すのが経営科目である。

鉄道経営上費される経費はきわめて多種類の要素から構成されており、これをいかに分類するのが合理的であるかはむずかしい問題である。経費を合理的に統制管理し、また決算を分析して予算の編成、各種の企画資料の基礎とするには、経費は一面においては形態により分類すると同時に、他面において目的による分類をもなす必要があるのである。両者を立体的に組み合わせた勘定科目を編成することができれば理想的である。しかしそれは非常に複雑なものとなって決算事務にかえって支障をきたすことにもなるので、国鉄においては、経費の使用目的による分類は「款」および「項」に示す大分類および中分類にとどめ、小分類を省略している。「項」の内わけたる「目」はもっぱら形態分類のみである。経営科目は各項の中を目的により小分類したものである。

経営科目は昭和26・9 達第449号経営科目決算手続にもとづいて設けられたもので、昭和26年度以来実施されている。経営科目による決算額は、経済計算の基礎をなすと同時に、経営分析および各種の企画に基礎資料として利用されている。(中島勇次)

けいえいかんさ 経営監査(国鉄自動車の) 国鉄自動車は経営監査規程を設けて経営監査を行っている。それは独立採算制のもとで、各経営責任単位が能率的な経営をしているかどうかを監査し、もし悪い点があればその原因を究明して、具体的な改善措置をとれるようにするのがその目的である。経営責任単位は全国を9つの地方自動車事務所に分け、地方自動車事務所は各5～13の自動車営業所に分けてある。この各経営責任単位の経営成績は毎月「自動車経費決算」、「国鉄自動車経営統計」および「自動車純収入計算」によって明確にされるので、この資料によって定期的に書面監査を行い、なお必要ある時は、とくに細密な書面を要求して監査するか、または現地監査を行う。

経営監査の方法は、定期監査と細密監査とあり、書面(主として統計)を用いる書面監査と現場の実際について行う現場監査とがある。また書面監査は経営責任単位相互を比較してみる相互比較と、同じ箇所での成績を過去の成績と比較してみる期間比較によって監査する。

1 自動車経費決算

経営成績を監査するには、通常原価計算を行うのであるが、国鉄自動車は統計機を用いて決算を行い、その決算科目を原価計算科目と同じにしてあり、また経費発生箇所ごとに計算するように組立ててあるので、自動車経費の決算は同時に原価計算と同じ行程をとるわけであるから、決算と経営の成果とを比較すれば、経営原価が明らかになる。

2 国鉄自動車経営統計

経営統計というのは成果計算であるが、部分的には原価計算の経費計算部門の補助的な統計も含まれている。

経営統計の種類を挙げると、

(1) 国鉄自動車運輸統計 自動車の旅客貨物の運輸量および

その収入を精細に表わす (2) 国鉄自動車作業成績統計 自動車の運用別の延日車・走行キロ・燃料消費量・油脂消費量および修繕用部品の消費費額を精細に表わす。

3 *自動車純収入

4 書面監査

書面監査はまず運送原価比較表を作って営業所相互の比較を行う。この比較表は部門別・要素別に分けて作る。部門別は管理部門、営業所管理部門、営業部門、運転部門、車両保守部門の5部門と減価償却費に分け、各部門は各人件費と各部門の物件費・経費の主要なものを要素別に分けてその運送原価を表わし、これを事務所別または営業所別にならべて相互に比較検討し、また同じ事務所または営業所の実績を前月または前年の実績と比較する等、期間比較を行って検討する。

相互比較や期間比較を行うと、ある営業所のある経費が他に比較して多いとか、過去に比較して多くなってきたということが指摘される。しかしこの運送原価比較表では、原価が高いか安いかわかるだけであるから、別に作業成績比較表を作って、原価と成果すなわち作業成績と比較してその原因を追究する。作業成績比較表は走行キロ・運輸量・収入・車両の運用別延日車(運用別とは車両が運転に使用されたか、検査修繕にまわされたか、あるいは予備車として車庫にあったかどうかの区別をいう)を各要素別に並べて、運送原価比較表と同じように比較する。

運送原価と作業成績の双方を比較検討するとその間の因果関係が判明してくるから、ある営業所の運送原価の高いのは、車両の運用が悪いからであるとか、労務の運用が悪いとか、その原因が指摘されるわけである。

この監査はちょうど医療における定期健康診断に相当するもので、診断の結果病因がわかれば、処方箋を書き治療の指示を与えると同様に、経営監査は経営の欠点を発見し、その原因を明らかにしてこれを除去する方法を立てるのである。

5 現地監査

書面監査の結果経営の欠点が明らかになり、その改善方法を立てる場合は、現地の特殊事情を考慮して具体的な方法を立てなければならないので、その必要があると認められるとき、現地について監査を行うのである。

6 資料の等質化

相互比較または期間比較を行う場合は、資料の質的内容を考慮しなければならない。できれば資料を分析して、これを等質化して比較すべきであるが、これを全部について行うことは監査業務をはなはだしく煩雑にするので、問題点だけについて細密な監査を行う場合だけこれを行っているのが実状である。

(中村 清)

けいえいとうけい 経営統計(国鉄の) 経営活動を合理的に遂行してゆくための1つの手段として経営体に適用される統計。今日の複雑な経済社会においては、いわゆる勘や推量でことを処理することは適当でなく、計数による科学的管理が必要である。経営統計はこの計数管理の1つの手段であって、それによって合理的な経営の計画および管理を行い、経営効果を増すことが目的である。経営統計は最近企業の科学的管理・合理化促進のための資料として急速に発達するに至っているが、ことに